
ダチと世界と赤いチェックの街並み

烏丸丸太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダチと世界と赤いチェックの街並み

【Nコード】

N0825BA

【作者名】

烏丸丸太

【あらすじ】

仙台という街…世界とのつながりをもつ学園…カラーギャングの真似事…喧嘩…オタク…恋…そして友情…
友は力…繋がりは力…その力が街に広がり、国をに名を広め、やがて世界と繋がっていく…。

…

デュラララ好きな作者が作った、オリジナルではあるがデュラララからヒントを得た作品です。受験生故更新不定期です。
一話一話が短めなので読みやすいはずです！

意見、批判、アドバイス等いただけると嬉しいです！

筆記試験（前書き）

よろしくお願いします！

意見などよろしくお願いします！

筆記試験

仙台の街中の一つの建物、静けさの包む中、えんぴつの音だけが鳴り響く…

カリカリ…カリカリ…

…

『あー、わっかんね…』

現在、受験中。頭が完全にショートしてるのは…

「雪村 零矢」

黒光学園の入試、この地域では中の下くらいのさほどアタマの良くない高校…だが…

『なんだこれ…国語はできたのに…でももうウダウダ言ってるねえ…すでに英語の一桁は確定だし…つっても数学なんかやってないわチクショー！！俺の頭は算数で止まっているんだ！！』

なんだか威張れない事を心の中で叫んでいる…。

『なんだこれ？わっかんね…よしっ、神様、私に力を…』

そう心の中で念じ、六角鉛筆をころがす…ころがす…ころがす…

当然、六角鉛筆は六面しかないわけで、数字も6までしか出ないわけで、これは数学なわけで、7・8・9といった数字を使わなきゃ答えが出ないわけで…。

雪村の入試、筆記試験は散々に終った…

入試が終わり、それぞれ帰路につく。その中でも一段と暗い顔をしている雪村

『ゆっきー、どうだったー？』

同じ中学の「水流 青宗」がわかりきったことを聞いて来る。

『もうダメだ…アタマじゃこの高校にははいれねーよ…』

そう、雪村の知能ではこの高校に入る事はできないだろう。

『俺もだー、もうあれにかけるしかないよなw』

…この二人はお互いに筆記の試験で受からない。そうわかっていても、この高校にはもう一つの試験があった…

『…そうだなっ、俺らは次で頑張るんだもん！』

彼らが頼りにしているものは…

黒光学園特別入試制度…

アピール面接制度…

アピール面接制度

筆記試験から2日後、雪村と水流はふたたび私立黒光学園に向かい歩いていた。

「アピール面接制度」…

受験で行う面接はもちろん、自分はどんな人かを知ってもらうための、いわゆるアピールの場である。

しかしこの黒光学園での面接はちょっと変わっている…

まず、受験者が「何」をやるのか、またその時間を提示しておく。そして面接当日、その「何」…特技などを披露し、それについて面接官が質問をしていく…。

この面接での「何」は何をやっても自由…これがこの面接でのポイントだ。

一発芸をしたって良いし、歌を歌っても良い。オタクな自分の趣味のフィギアについて語っても良いし、喧嘩が強いです…で学園側が用意した相手をボッコボコ…というのも過去に何件かあったという。

2日ずらされてるのは、休みに入っているから…つまり、他のバンドのメンバーを誘ったり、コントで漫才しても構わないわけだ。

この面接は時間も決められてない。三十分までなら自由である。

この、いわゆるアピールタイムが終わったあとに五分間の面接がある。

なぜそれを行ったのか？今のどこが面白かったのか？その価値はどれ位なのか？どれ位練習したのか？なぜそんなに強いのか？…

こんな質問に答えて終了…簡単なようで難しいのである。

この審査の仕方は門外不出なのだとか…。

実はこの高校、筆記の試験は試験全体の三割という普通の高校ではあり得ない割合で試験をしている…。

アピール面接制度は残りの七割、つまり頭の悪い人……雪村や水流でもこの面接次第で受かるということである。故に彼らはこの「アピール面接制度」にかけていた。

少し目立つ…ちょっと違うオーラをはなっている二人……

袖口からチラチラ見える真っピンクの時計。
歩きながら、棒付きの飴チュ　パチャ　プスを舐める雪村…

雪村『あー、何だか緊張してきたよー。』

やや形状がラバーソールに近い真っ黒な靴。
春なのに、黒いダッフルコートを着て歩く水流…

水流『俺もだー、でも、やるしかねーよなっ!?!』

雪『そうだなっ! まあ、トチんなきゃ誰にも負けないだろうし?!』

水『そのとーりー! ほんじゃ、行きますかあっ!』

二人は黒光学園に乗り込んだ。

アピール面接制度（後書き）

感想、意見お願いします。

二人のアピールタイム

…

『もうすぐ呼ばれますので、ここでお待ちください。』

そう言われ、おそらく机とセットで使われている木の椅子に座る二人。体育館や校庭を使う人もいる、が、やはり教室が一番多い。

雪村と水流は二人で面接をすると提示していた。

建物の中では、ビシッ…バシッ…と音が聞こえる…。二分ほど止み、今度は何か喋っている。おそらく質問されているのだろう。

…五分ほどしたら、

ガラガラガラッ！

『失礼しましたっ』

道着を着た男の子が、その服装通りの挨拶をして更衣室に向かっ
て行く。…なぜ武道館でやらなかったのだろうか？と二人が思っ
ていた、

『次の二人、入りなさい。』

…呼ばれた。

…二人は『失礼します』と言い教室に入る。

…椅子に座った所で、教室に白髪のおじさん、学園長が入ってくる。

面接官は少し焦った様子だ。

…『そつ、それでは、あなた方のアピールを始めてください。』

水流『俺たちのアピールは、学園長あなたへの質問です。』

学園長は目を少し大きく開け、二人を睨む。

雪村…『学園長、あなた、ドイツでなにやってます？』

学園長の表情がほんの一瞬ゆがむ。

雪『あんた、…麻薬売ってるでしょ？』

面接官と学園長の表情が凍りつく。

水『いや、日本で売ってるわけじゃない。取引のルートは知りませんが、あなたはドイツ軍に売っていますね？価格としては赤字ぎりぎりのラインでしょう。麻薬を通じてドイツ軍との線を作っている。確か毎年、修学旅行はドイツでしたよね？さらに今年の首席を含め七人がドイツに就職確定とか何とか…。』

学園長『その情報はどこで手に入れた？』

雪『そりゃー、教えるにはそれ相応の条件が…ねえ？』

水『そうだな』

学『わかった。入学は保証しよう。で、君たちはなんなんだ？』

水『俺たち？そうですねえ…』

雪『俺ら、何者でもないっすよ…しいて言うなら…情報収集が趣味の健全な高校生デース。』

場の空気を和ませるつもりが湿気る雪村。

学『…とりあえず後で個別に話がある。学園長室に来てくれ。これ

にて面接は終了だ。

：

こうして彼らの入学は決定した。

二人のアピールタイム（後書き）

ちょっと話が飛躍しすぎてる気がします。

次にキャラ紹介、主要人物二人についての説明です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0825ba/>

ダチと世界と赤いチェックの街並み

2012年1月4日14時53分発行